

## 第487回 番組審議会

1. 日 時 2013年6月11日(火) 午後1時30分～

2. 開催場所 テレビ岩手 6階大会議室

3. 委員総数 12名

出席委員 8名

委員 長	望月 善次
委員	坂本 修
委員	池田 克典
委員	吉江 信博
委員	遠藤 雅也
委員	國分 正人
委員	村川 健一
委員	千葉 隆史

欠席委員 4名

副委員 長	福田 泰司
委員	柴田 和子
委員	鈴木 正之
委員	平 英一

社側出席者

檜崎 憲二	(代表取締役社長)
矢後 勝洋	(特別顧問)
山口 英二	(常務取締役)
淵沢 行則	(取締役報道制作局長)
菅野 智	(営業局長)
熊谷 慎也	(報道制作局次長)
菊池 健	(報道制作局報道部副部長)

事務局

遠藤 隆	(編成技術局長)
平井 直子	(編成技術局編成部副部長)

#### 4. 議 題

1. 2013年5月25日(土) 10:00~10:25 放送  
「ILCを岩手に ～めざせ世界の知の拠点～」
2. その他

#### 5. 資 料 (資料として以下のものを配布)

- ・ 視聴者からのご意見

#### 6. 意 見

##### 委員側意見

- ILCは宇宙の起源解明などで注目されている。医療でも期待。しかし一般に知られていないので制作は苦労しただろう。話が飛び飛びで番組が進んでいてわかりにくいところがあった。メリットデメリット等分けた方がわかりやすかったのではないだろうか。
- 冒頭にテーマが明らかになっていた。放送のタイミングがよい。冒頭に映画などを使うことでわかりやすかった。先進地視察の同行による番組。良いと思ったのはメリットとデメリットを公平な視線で見ていること。
- 全体的に短い時間の中に大切なことが盛り込まれていて良かった。映画を効果的に使って固い内容を身近に感じさせていた。北上高地に堅い岩盤があることがわかった。国内のILC候補地となっているライバルの九州・脊振山地のことをもう少し説明してほしい。
- 東大の准教授の話のバックに音楽があって聞きづらかった。字幕で補ってほしい。科学者はILCを日本へ日本へと言う肯定的な意見だったが、ILC誘致はまだ検討の段階。安部首相に日本への誘致を働きかけているが、日本にくるかどうか、日本が誘致する気があるかどうかわからない段階。誘致合戦にあおられているような気もする。
- この番組を私は誘致のキャンペーン番組としてみた。一般の報道番組とは違う。同行取材したことでも方向性は決まっている。セルンの人たちが真摯な対応してくれたことで番組の質が高まった。
- 難しい部分もかなりあったが、ILCに初めてふれた人にはわかりやすかった。一般の人の意見も吸い上げてほしい。ILCのことはメディアも頻繁に取り上げている。短時間に多面的に取り上げていた。ILCの誘致を復興の契機にしてほしい。

##### テレビ岩手側の意見

- ILCという言葉だけが広がっている中で、ILCとはどういうものか。現状を伝えようとした。しかしILCというのは科学者レベルでの話であって実体があるわけではない。ビジュアル的に見せようとして映画などを用いた。視聴者に具体的なイメージを持ってほしい。最先端施設のイメージ。視察団もびっくりしたが、セルンが誘致されて良いという話だけかと思ったら、問題点など時間をオーバーして話してくれた。メリットは教育的な効果。ILCは科学者レベルで進んでいる話で、仮に国内候補地として岩手が九州に勝っても、誘致に日本が手を上げるかどうかわからないし、手を挙げても外国の候補地に勝てるかどうかわからない。それでもこの問題は継続して取材したい。